

おじいちゃんの水やり機

高岡聴覚総合支援学校 四年 柴田 陽色

ぼくの家には、いしぎな物があることを発見しました。ぼくが三才のとキノ、なくなっただおじいちゃんが作った物だとうです。その物についてしようかいたいと思います。

ぼくの家には、おじいちゃんの手植えたブドウの木があります。ブドウの木はビニールハウスの下にまわっているのですが、水やりはかかせません。そこで、おじいちゃんは、雨水をリ

用することを考えました。大きなタンクに水をためて、下から出たホースで水をやるので、す。タンクには、くらについた、雨ざりながら直せフ水が入るくふうがしてあります。雨水がたまりすぎたり、タンクの上についたはい水ホースで畑に水を出せるようにしてあります。おかげでブドウの木は元気に育っています。毎年おいしい実がなっています。

ぼくは、こんな風に、雨水をり用することを考えたおじいちゃんは、すごいなと思います。

した。もう、タンクは古くなっ
てしまいましたが、今でもやく
立っています。おばあちゃん
は、
「ありがたいなあ」と言っ
ています。おじい
ちゃんは、ぼくに「水を大切
にすること」を
教えてくれました。ちよっ
としたくふうで、
水が、こんなにやく立てる
なんて、すごいな
と思いました。ぼくのまわり
にも、少しのく
ふうでやくに立つものもあ
ると思います。自分で見つ
けて、くふうしてみたいと
思います。

そして、おじいちゃんみた
いに水や物を大事にする
人になりたいです。